

平成 29 年度「『古代歴史文化賞』記念シンポジウム」及び「連携推進懇談会」開催業務 委託事業者募集に係る質問と回答

■事前質問

【質問 1】

平成 28 年度の作成物及び改善課題項目をお教えいただきたい。

【回答 1】

平成 28 年度は、記念シンポジウム広報用チラシ、記念シンポジウム当日配布冊子、ノベルティとしてブックカバーを作成した。また、「古代歴史文化賞」ノミネート作者への副賞として、10 万円程度の特産品「一刀彫り」を購入した。

シンポジウムの改善課題として、プログラムの時間配分が挙げられた。連携推進懇談会での改善課題として、多くの方と交流できるような方法の検討が挙げられた。

【質問 2】

平成 28 年度の参加者人数等の結果をお教えいただきたい。

【回答 2】

連携推進懇談会の参加者も含め、約 900 名にご参加いただいた。シンポジウムは、約 1,500 名から参加申込みがあり、抽選により 900 名に参加いただいた。

【質問 3】

平成 28 年度の出演者の人数と招待客の人数をお教えいただきたい。

【回答 3】

第 4 回「古代歴史文化賞」大賞受賞者である田中史生先生、奈良県立図書館館長である千田稔先生、5 県の県知事（うち 2 県はビデオ出演）、パネルディスカッションのコーディネーターである小滝ちひろ様に出演いただいた。

シンポジウムの招待客は約 50 名であった。

【質問 4】

会場のレンタル費用を提示していただきたい。

【回答 4】

シンポジウムの会場、連携懇談会の会場及び控え室を含めて約 40 万円。

■平成29年5月2日開催の説明会における質問と回答

【質問1】

昨年度の実施報告書を開示してもらえるか。

【回答1】

実績報告書の公開については、お手数ですが、情報公開制度の手続きをお願いしたい。情報提供という形ではご提示できかねる。

【質問2】

昨年度の開催では900名を超える参加申込みがあったようだが、さらにインパクトのある広報PRが必要なのか。

【回答2】

過去の開催で募集人数を超える応募があったのは、広報PRによる影響が大きい。本業務は、首都圏で開催されるため、よりインパクトのある広報が必要になると考える。

【質問3】

過去に朝日新聞の後援を受けているが、県から依頼しているのか。

【回答3】

県からは後援依頼していない。提案に任せている。

【質問4】

過去4回の開催のうち、朝日新聞が後援をしていたのは何度か。また、それ以外のメディアが後援していたことがあるか。

【回答4】

朝日新聞の後援は平成27年度、平成28年度の2回。他のメディアから後援を受けたことはない。

【質問5】

仕様書の「12. 業務詳細 (2) 記念シンポジウムの企画・実施 ②」の中で、「有識者（大学教授など）の講演」とあるが、有識者は事業者が提案するのか。

【回答5】

有識者による講演をプログラムに採用するかどうか、提案に委ねたい。講演を提案される場合には、講師の提案をお願いしたい。その後、県との協議の上決定する。

【質問6】

仕様書の「1 2. 業務詳細 (4) 会場での観光 PR ブースの設置、受賞作品の販売等の演出 ①」に記されている PR ブースの募集・選定は事業者が行うのか。

【回答6】

実際の PR は各県が行う。提案では、会場のレイアウト等をお示しいただきたい。

【質問7】

出演者への謝金の中に、各県知事への謝金も含まれるか。

【回答7】

含まない。

【質問8】

ノベルティの作成について、ノベルティは参加者全員に配ることを前提としているか。

【回答8】

仕様書上は参加者全員に配らなくてもよい。昨年度は全員に配布している。

以 上